

野々市市西部中央土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書1

田尻ナワシロ遺跡

2017

石川県野々市市教育委員会

例 言

- 1 本書は、田尻ナワシロ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県野々市市田尻町地内である。
- 3 調査原因は、野々市市西部中央地区土地区画整理事業の都市計画道路敷設に伴うものである。
- 4 調査は、野々市市西部中央地区土地区画整理組合の依頼を受けて野々市市教育委員会が実施した。
- 5 調査にかかる費用は、野々市市西部中央地区土地区画整理組合が負担した。
- 6 現地調査の年度・期間・面積・担当者は以下のとおりである。
 - ・現地調査期間 平成 29 年 7 月 6 日～平成 29 年 7 月 31 日
 - ・現地調査面積 474m²
 - ・調査担当者 西村 慈子（野々市市教育委員会文化課 主事）
- 7 出土遺物の整理は平成 29 年度に野々市市教育委員会文化課が行った。
- 8 報告書の刊行は平成 29 年度に野々市市教育委員会文化課が行った。執筆・編集・執筆補助は以下のとおりである。
 - ・報告書執筆・編集 西村 慈子
 - ・出土品写真撮影・報告書執筆補助 菊地 由里子・花田 和希（野々市市教育委員会臨時職員）

本書についての凡例は以下のとおりである。

- (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
- (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。
- (3) 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
- (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
- (5) 土層図・遺物観察表の色彩注記は、『新版標準土色帖』に拠った。
- (6) 遺構名称の略号は以下のとおりである。

溝：SD 土坑：SK 小穴：P 自然流路：NR

- 8 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。

第 1 章 経緯と経過

田尻ナワシロ遺跡発掘調査は、蓮花寺町・田尻町・堀内一丁目を含む野々市市西部中央土地区画整理事業の施工に伴うものである。平成 25 年 12 月 2 日、野々市市西部中央地区土地区画整理組合から野々市市教育委員会（以下、市教委と呼称する）に土地区画整理事業地内における埋蔵文化財確認の調査依頼があった。試掘は平成 27 年 1 月、平成 27 年 11 月に実施し、土坑や溝などの遺構を確認した。よって市教委は埋蔵文化財包蔵地として保護措置を図り、平成 28 年 4 月 27 日付石川県教文第 295 号において周知の埋蔵文化財包蔵地とし田尻ナワシロ遺跡が認められた。

都市計画道路敷設については発掘調査が必要なことから、石川県教育委員会に対し、平成 29 年 5 月 9 日に埋蔵文化財包蔵地における土木工事取り扱い手続きを進達、平成 29 年 5 月 16 日付で通知がなされた。

現地での発掘調査は、7 月 6 日より現地掘削作業を開始し、大型重機での掘削後、人力による掘削作業を行った。また、掘削作業と並行して遺構記録及び図化作業を行い、7 月 31 日に現地発掘調査作業を完了した。

出土遺物の整理作業は発掘調査と並行して行い、平成 29 年 8 月から出土遺物の洗浄等を開始し、遺物接合及び実測作業、遺物写真撮影、報告書作成を経て、平成 30 年 3 月 30 日に発掘調査報告書を刊行した。



第 1 図 調査位置図

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と環境

野々市市は石川県のほぼ中央、石川平野の要地に位置する。市の大きさは南北約6.7km、東西約4.5kmで、県内で最も面積の小さい自治体である。市域は白山を源とする県下第一級河川手取川によって形成された手取川扇状地の北東扇央部から先端部に位置しており、市内の標高は、最も高い地点で標高50m、最も低い地点で標高10mと、緩やかな斜面となる地勢を有している(第2図)。

今回の発掘調査地である田尻ナワシロ遺跡は、市域の西に位置し、北側には国道157号線が、西側には国道8号線が走る。扇状地扇央部であり、標高は約21.5-22mである。かつては起伏のある地形であったと考えられるが、今日の耕地整理の結果、現在は平坦な地形となっている。



第2図 野々市市位置図

第2節 歴史的環境(第3図・第1表)

縄文時代 手取川扇状地扇端部にあたる野々市市北部は、扇状地の地下を流れる豊かな伏流水に恵まれた地域であり、多くの遺跡が集中する。とくに、縄文時代後晩期には多くの集落が形成され、国指定史跡御経塚遺跡(野々市市)ほか、国指定史跡チカモリ遺跡や中屋サワ遺跡(金沢市)といった著名な遺跡を筆頭に数多くの縄文集落遺跡が分布している。対して、扇央部にあたる野々市市南部では、縄文遺跡はわずかに散見するのみである。しかし、当遺跡から南東へ2.2kmにある粟田遺跡(野々市市)からは縄文晩期の打製石斧製作跡が確認されており、手取川扇状地において、扇端部と扇央部の生産環境や活動における違いを考えることができる。

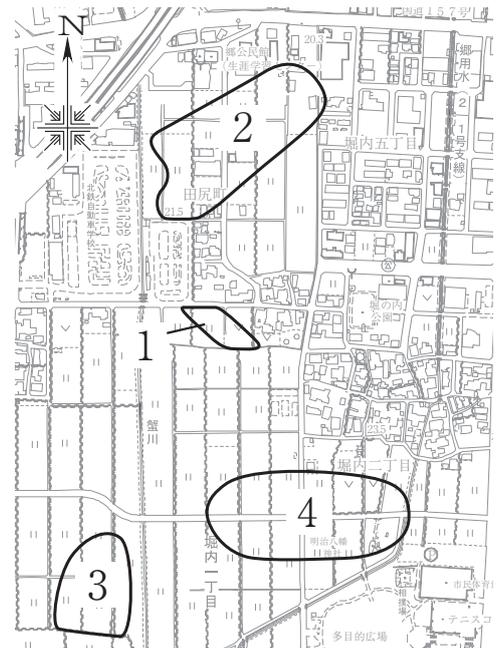
弥生時代 扇端部・扇央部ともに弥生前・中期は集落遺跡が少ない。しかし後期になると開発が進み、集落遺跡が急激に増加する。当遺跡の北方にある御経塚シンデン遺跡、二日市イシバチ遺跡、三日市A遺跡、東方にある高橋セボネ遺跡、南方にある熱野遺跡(白山市)などが挙げられる。

古墳時代 扇端部・扇央部では前期古墳群が確認されており、ともに前方後方墳・方墳で構成されている。古墳時代後末期には扇央部に横穴式石室をもつ上林古墳が築造されている。

古代 扇端部には国指定史跡東大寺領横江荘遺跡 荘家跡上荒屋遺跡(白山市・金沢市)といった初期荘園が、扇央部には当遺跡から南へ3.0kmの位置に史跡末松廃寺跡(野々市市)が造られた。末松廃寺は7世紀後半に建立された県内最古の古代寺院であり、法起寺式の伽藍配置を有している。この時期の扇央部は大規模集落が各所で急増する傾向がわかっており、一帯で急速な開発が推し進められたことがわかる。

中世 11世紀後半～12世紀ごろ、扇状地開発に伴って林氏や富樫氏などの在地領主武士団が興った。建武2年(1335)には富樫氏が加賀守護職に任ぜられ、富樫館を設けて守護所とした。この富樫館跡は当遺跡から東へ2kmの位置にあり、幅6～7m、深さ2.5mの葉研堀の堀跡を発掘調査によって確認している。

近世・近代 近世の野々市は金沢から南へ向かう最初の宿駅として栄えた。『田尻』については、慶長4年(1599)に前田利家が家臣に宛てた書状に『田之尻』の村名がうかがえる。古くは村の西側に富樫家国が勧請したと伝えられる八幡神社があったが、明治40年(1907)に堀内八幡社(現在の明治八幡神社)に合祀された。



第3図 調査地周囲の遺跡 (S=10,000)

No	遺跡名	時代
1	田尻ナワシロ遺跡	縄文・近世
2	田尻ジッタ遺跡	弥生
3	蓮花寺アカグロ遺跡	古代
4	堀内館跡	縄文・中世・近世

第1表 周辺の主な遺跡

X=51140

Y=51100

1区

2区

X=58,840

0 10m
S=1/250
(調査区)

＜1区北壁土層断面図土色＞

1. 現耕土
2. 現床土 (Fe沈着)
3. 2.5Y 7/6 明黄褐色 粘質土
4. 2.5Y 5/6 黄褐色 粘質土 (Fe沈着)
5. 10YR 5/2 灰黄褐色 砂質土
6. 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 中細砂 (=2区4層)
7. 2.5Y 4/1 黄灰色 粘質土

＜2区北壁土層断面図土色＞

1. 現耕土
2. 現床土
3. 10YR3/2 黒褐色 砂質土 (瓦片混じる。Fe、Mn 多量沈着)
4. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細砂 (Fe沈着)
5. 10YR3/2 黒褐色 砂質土 (細砂主体) と 10YR5/1 褐灰シルトの混在層
6. 10YR3/2 黒褐色 砂質土 (細砂主体) と 10YR5/1 褐灰シルトの混在層
7. 10YR3/4 暗褐色 砂質土 (細砂主体) (直径2～3cmの礫が北側に多く混じる) (地山)

SD24. 7.5YR1.7/1 黒色 微砂 (直径2～5cm礫混じる)
SK25. 7.5YR1.7/1 黒色 微砂 (直径1cm礫混じる。4層がブロック土状に少量混じる)

L=22,200m
d (W) (E)
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

L=22,000m
b (W) (E)
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
SD24 SK25
a (E)
0 5m
S=1/100
(土層断面図)

第4図 調査区平面図・北壁土層断面図

3

第3章 調査区と基本層序

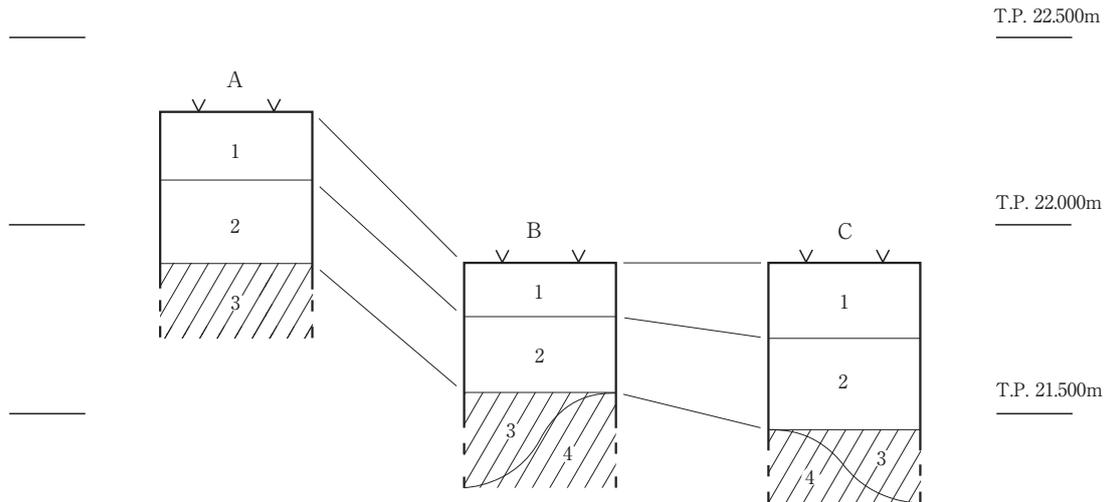
第1節 各調査区について

今回の調査は、調査区が2ヶ所に分かれることから、西側調査区を1区、東側調査区を2区と称する。

第2節 基本層序

1区ではA・B地点、2区ではC地点から土層を抽出し、土層断面柱状模式図を作成した(第5図)。

第1層は現代水田耕作土層および床土である。第2層は近代以降の遺物包含層で、単一層としたが場所によっては複数に分層できる。土質は細砂主体の砂質土であるが、直径3センチ前後の礫が混入している。第3・4層は地山層で、第3層は黄褐色細砂層、第4層は礫層である。調査区の一部を深掘した結果、第4層は起伏の激しい地勢をしており、第3層はその鞍部に堆積している状況を確認した。なお、遺構は第3・4層直上で検出した。



第5図 土層柱状図 (S=1/20)

第4章 調査の成果とまとめ

第1節 調査成果

SK7 (遺構: 図4・遺物図6-1)

1区の中央で検出した直径0.8m、深さ0.2mの土坑である。遺物は縄文時代後期後半の浅鉢形土器の小片が出土した。埋土の様相から、遺構は縄文時代の遺構ではなく、後世のものと考えられる。

SK2 (遺構: 図4・遺物図6-3)

1区の中央東側で検出した長径0.9m、短径0.45m、深さ0.1mの土坑である。遺物は石鍬1点が出土した。遺物の出土状況から、遺構は縄文・弥生時代の遺構ではなく後世のものと考えられる。

SD24 (遺構: 図4・遺物: 図6-2)

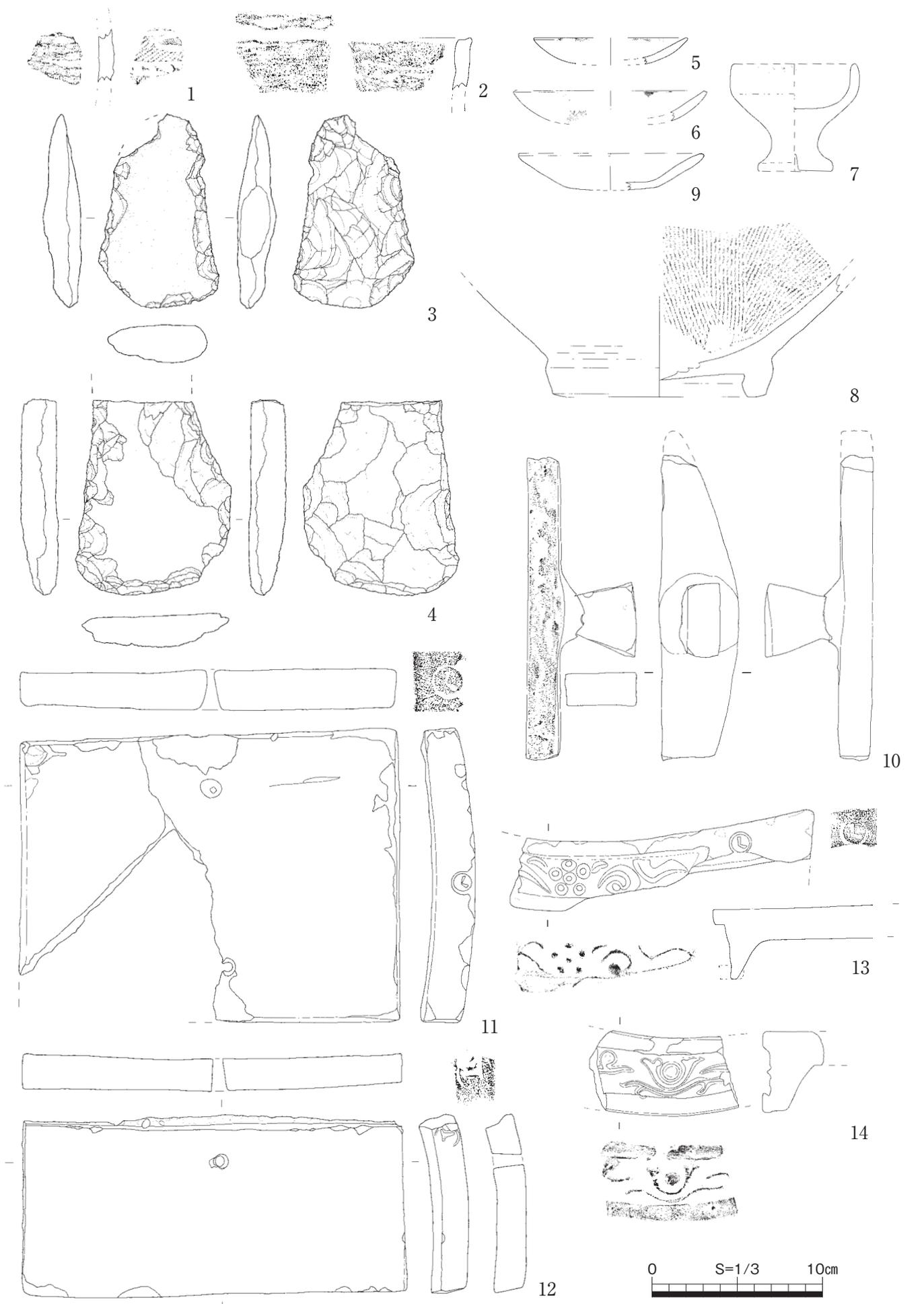
2区の西端で検出した幅1.0m、深さ0.2mの溝である。遺物は粗製深鉢の口縁小片1点が出土した。遺物の出土状況から、遺構は縄文時代ではなく後世のものと考えられる。

NRI (遺構: 図4・遺物: 図6-5～14)

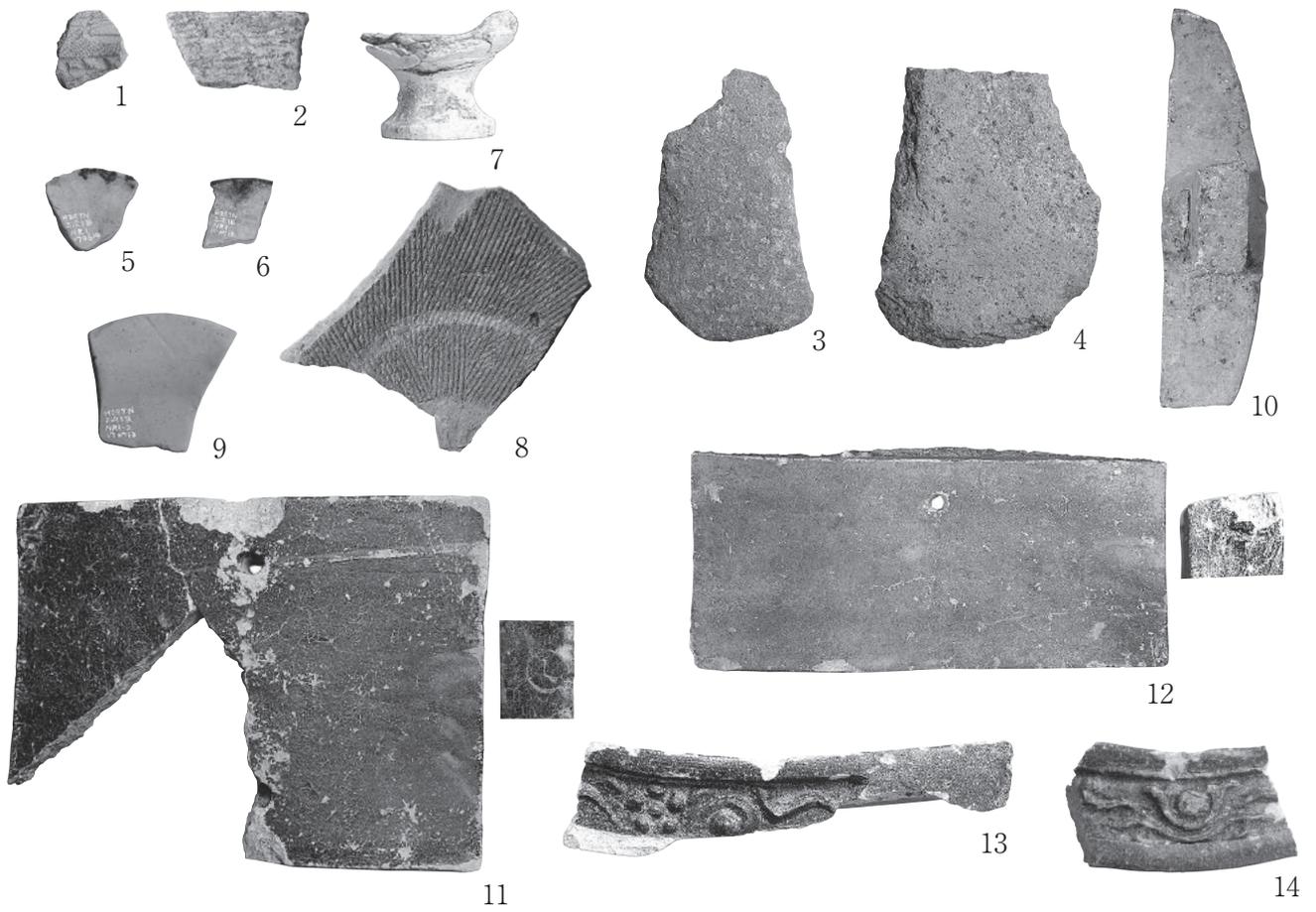
1区の中央で検出した自然流路である。流路幅は南東側が広く約10m、北西側が狭く約3.0mである。起伏が激しいため深さが一定ではなく、最も深い部分で遺構面からマイナス1.0～1.1m、最も浅い部分で遺構面からマイナス0.1mと差が激しい。埋土は、ラミナなどの流水痕跡がなく、拳大の礫と地山ブロック土が多量に混じる粘質土である。これらのことから、この自然流路は常に水が流れるような状態ではなく、突発的な水の流れであったと考えられ、その年代は、出土した近世瓦の時期であると推測できる。

第2節 まとめ

今回の調査で、近世古文書にみられる田尻村の一端がみえた。また、縄文土器や石鍬など、少量ではあるが有史以前の遺物が確認できたことは、当遺跡周辺の土地開発の歴史を知る上で重要な成果であった。



第6図 遺物実測図1 (S=1/3)



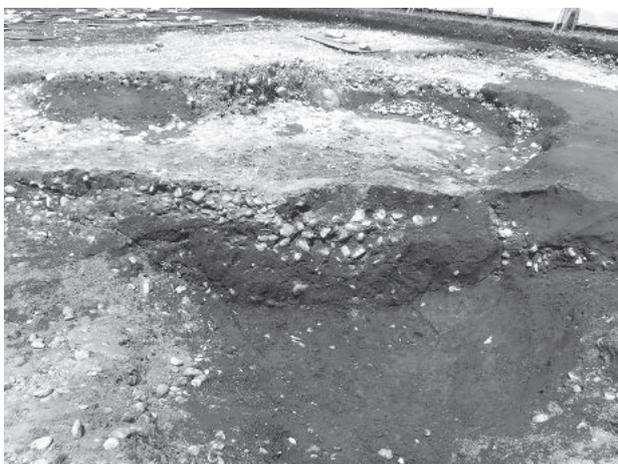
写真図版1 出土遺物



1区全景 (南から)



2区全景 (南から)



NR 1 断面 (東から)



SK10 断面 (南東から)

写真図版2 遺構・全景写真

第2表 土器観察表

番号	区名 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整(外)	色調(外)	残存率	備考
						調整(内)	色調(内)		
1	1区 遺構7	縄文土器	—	—	—	縄文・沈線	7.5YR7/4こぶい橙	小片	浅鉢口縁 後期後葉
						ナデ	7.5YR6/4こぶい橙		
2	2区 SD 1	縄文土器	(470)	—	—	条痕	10YR7/4こぶい黄橙	小片	粗製深鉢口縁 内面に粘土紐痕あり
						ナデ	10YR7/4こぶい黄橙		
5	1区 NR 1	土師器 皿	(90)	—	—	ナデ	10YR8/3浅黄橙	小片	燈明皿 内外表面剥離
						ナデ	10YR8/3浅黄橙		
6	1区 NR 1	土師器 皿	(113)	—	—	ナデ	7.5Y8/2灰白	小片	燈明皿 表面部分的に剥離
						ナデ	7.5YR8/3浅黄橙		
7	1区 NR 1	陶器	73	64	43		7.5YR8/4浅黄橙	脚部 全周 口縁部 2/3	口縁部に炭化物付着
							7.5YR8/4浅黄橙		
8	1区 NR 1-2	陶器 播鉢	—	—	126	回転ナデ	5YR3/2暗赤褐	底部1/3	内面に重ね焼き痕 底部スナメ
						ハケメ	10YR3/2黒褐		
9	1区 NR 1-2	土師器 皿	109	22	55	ヨコナデ	10YR8/3浅黄橙	1/7	
						ヨコナデ	5YR7/6橙		
10	1区 NR 1	面戸瓦	最大長 (181)	最大幅46	最大厚63	ナデ	7.5YR7/3こぶい橙	ほぼ完形	重量 (248) 素焼き、釉無し
						ナデ	7.5YR7/3こぶい橙		
11	2区 SX 01	平瓦	最大長 224	最大幅 174	最大厚24		10YR4/1~2/1褐灰~黒	ほぼ完形	重量 (944) 焼成後穿孔、刻印あり
							10YR4/1~2/1褐灰~黒		
12	2次 SX 01	鬘斗瓦	最大長 222	最大幅 108	最大厚23			完形	重量 (677) 焼成前穿孔、刻印あり
13	2次 SX 01	軒平瓦	最大長 (119)	最大幅 (191)	最大厚 (52)		10YR2/1黒	2/3	重量 (485) 中心飾は梅鉢
							10YR2/1黒		
14	1区 NR 1	軒平瓦	最大長 (32)	最大幅 (88)	最大厚 (51)		7.5YR1.7/1黒	小片	重量 (136) 中心飾は宝珠
							7.5YR1.7/1黒		

第3表 石製品観察表

番号	区名 遺構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
3	1区 遺構 2	石鉢	(115)	71	22.5	180	玢岩	上部欠損
4	2次 遺構上層	石鉢	(116)	(92)	(92)	(300)	安山岩	上部欠損

報告書抄録

ふりがな	たのしりなわしろいせき							
書名	田尻ナワシロ遺跡							
副書名	野々市市西部中央地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財調査報告書 1							
編著者名	西村 慈子							
編集機関	野々市市教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目 1 番地 Tel : 076-227-6122							
発行機関	野々市市教育委員会							
発行年月日	西暦 2018年3月30日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
タノシリ 田尻 ナワシロ イセキ 遺跡	イシカワケン 石川県 ノノイチシ 野々市市 タノシリ 田尻	17212	1208000	36° 31′ 44″	136° 35′ 45″	2017.7.6 ~ 2017.7.31	474	記録 保存 調査
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	集落	縄文、近世		溝・土坑・ピット・ 自然流路		土器、陶器、 瓦、石製品		
要約	区画整理事業に伴って新規発見された遺跡で、主な遺構は近世の集落跡である。自然流路内からは近世の瓦や仏具、燈明皿などが出土している。							

2018年3月30日 発行

野々市市西部中央地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財調査報告書 1

田尻ナワシロ遺跡

著作権所有 石川県野々市市三納一丁目 1 番地

発行者 野々市市教育委員会

印刷者 石川県野々市市矢作三丁目 18

高桑美術印刷株式会社